

乳製品需給等情報交換会議における御意見

東宗谷農業協同組合

- 飼料価格や物流コストの高騰・高止まり等、厳しい経営環境が続いている。酪農は、エサや生乳を運ぶので、輸送の割合が高く影響が大きいため、国家的に考えなければならぬ厳しい問題。
- 生乳から製造されるバターと脱脂粉乳の割合は変えられない。生産者としてはバランスよく使ってほしいと思うが、難しいところだと思う。
- 6月末のホクレンの生乳受託戸数についても、近年の厳しい経営環境を反映し、宗谷管内で前年比94.4%（26戸減）、全道で前年比94.7%（255戸減）となっており、近年に無いペースで搾乳中止戸数が増えている状況にある。地元の酪農家が減少すると、みんな協力していることができなくなってしまう。
- こうした状況から少しでも早期に脱却するため、生産者としてもあらゆる努力を続けてまいるが、やはり持続的な酪農経営のためには国産の牛乳乳製品全体の需要の底上げによる需給改善が重要であり、消費者の皆さまや乳業者の皆さま、そして全ての関係者の皆さまのご理解とご協力をお願いしたい。

ホクレン農業協同組合連合会

- 現在、全国的な生産抑制への取組や、経営環境の悪化による搾乳中止農家の増加等により、生乳生産量は昨年を大きく下回る状況にあるが、需要面も飲用牛乳の需要は依然として低迷しており、乳製品についても、経済活動の活発化に伴い需要が堅調なバターを除き、全体的には弱含みの状況となっており、需給改善には至っていない。
- 乳製品需給については、依然として乳脂肪側と無脂固形分側の需要の跛行性は改善しておらず、脱脂粉乳の在庫対策を進めているが、急速に回復する経済活動により需要が堅調なバターと、需要低迷が続く脱脂粉乳との需要差は広がる傾向にあり、大きな課題だと感じている。
- 今年度のカレント枠については、需要の堅調なバターで消化することにより、需要の跛行性は一定程度是正されると認識しているが、生産者側としては、本来、国内のバター需要に対してはバターの輸入量を増やすのではなく、しっかりと国産バターを供給出来ることが理想であると考えている。
- 現下の需給環境においては、需要が低迷する脱脂粉乳が足枷となり、需要が回復している国産バターへの十分な供給が難しくなっているが、これ以上国内の生産基盤の縮小を招かないよう早期に生産抑制等の環境を脱却し、国内の需要に対し、国産乳製品を安定供給出来るような生産環境を構築出来るよう、農水省をはじめ、関係各位には引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げる。

一般社団法人中央酪農会議

- 飼料を中心とした資材価格が高騰するなか、指定団体において、乳価交渉に取り組んだ結果、飲用向けは、昨年11月と本年8月にそれぞれ10円/kg、乳製品向けは、本年4月から10円/kgの値上げとなり、現在も、再値上げ交渉が継続されている。
- しかし、本会議で取りまとめている、指定団体の受託農家戸数は、直近の6月で▲7.5%と引き続き高水準での減少率となっており、十分な価格転嫁が実現できていない状況にある。
- 政府においては、資材価格の高騰については、「価格転嫁」が基本とされているが、生乳需給の緩和傾向が適時・適切な価格転嫁の阻害要因の一つとなっており、生産者団体では、生産抑制や需要の喚起対策、また、国の支援を頂きながらの酪農乳業界としての脱脂粉乳の在庫削減対策に取り組んでいる。
- この結果、脱脂粉乳在庫量は、当初計画とおりの対策効果を見込むと減少することが試算されるが、自然体の需要量は、依然、生産過剰な状況にある一方、バター需要は、不透明感が高まっており、脂肪分需要と無脂乳固形分需要の格差が拡大する傾向にある。
- 国内に潜在的な生乳生産能力があるなか、国内で必要な消費量は、国産で供給して行く体制を構築すべきだと思うが、脱脂粉乳在庫が足かせになり、生産抑制や在庫対策を余儀なくされている状況が継続している。乳業メーカーが、脱脂粉乳の需要量の確保に取り組むことが望ましい形だと思う。

一般社団法人Jミルク

- 4月に製品価格改定があったものの、バターはインバウンドの回復、新型コロナの5類移行による経済活動が活発となった影響等によって業務用を中心に需要は、堅調に推移している。
- バターと脱脂粉乳の需給の跛行性は依然として顕著な中、酪農家の廃業増加や輸入飼料の動向、取引乳価の引き上げに伴う製品価格改定など、様々な要因が生乳需給に影響を及ぼし、また不確定要素が多いことから、それらを踏まえつつ対応を検討する必要がある。
- 脱脂粉乳については、今年度も国の支援を得ながら全国の生産者・乳業者が協調した在庫削減対策を推進するとともに、牛乳乳製品需要の維持拡大を積極的に取り組むことが必要である。一方、バターについては、引き続き消費動向を注視し、国家貿易による対応も含めて安定供給に努める必要がある。
- スマイルプロジェクトによる消費拡大にも取り組んでおり、業界外の人に乳製品の良さを知ってもらいたい。今後も消費拡大に取り組んでいきたい。

一般社団法人日本乳業協会

- 生産者による昨年からの生産抑制の取組や廃業・離農の増加等により、生乳生産量は前年を大きく下回って推移している。

- 乳製品の製造も生乳生産の減少から前年を下回っている。
- 一方、消費は、度重なる食料品、エネルギー費等の値上がりで、消費者の生活防衛意識は高く、昨年11月と今年4月の乳価改定と製品への価格転嫁以降、牛乳乳製品類の販売は低迷が続いている。更に、8月の飲用向け乳価並びに製品価格の再度の改定により、低価格帯商品へのシフトが進むとともに、牛乳類全体の消費量も減退は見込まれることから、生乳需給は緩和状態が続くものと予測している。
- 消費拡大に向けて、農水省による支援の下、酪農乳業関係者と連携して、消費者理解の醸成や消費拡大の企画を準備しているところである。
- 家庭用バターは、価格改定の影響もあり、大きな変動もなく推移することが見込まれる。
- また、業務用バターは、人流、インバウンドの増加等によって外食、土産、宿泊関係での需要は堅調な推移が見込まれ、今後は、最需要期に向けて海外乳製品相場、乳価改定等による生乳需給の動向に注視が必要である。
- 脱脂粉乳は、乳飲料、加工乳への需要のシフトに期待する一方で、発酵乳の需要の回復は見込みにくいことから、バターとの需要の不均衡は明確になっており、在庫の積み増しが懸念される。
- 以上のような状況を踏まえると、カレントアクセス輸入については、バターに寄せる等の検討も加えて、タイムリーな対応をお願いしたい。

卸売業者

【業務用】

《国産バター》

- 各メーカー在庫過少であり輸入バターの高騰の影響から引き続き国産の引合いが高い。
- しかし、国産バターの供給に限りがある中、ユーザーも輸入バターへの置換、併用は避けられない状況。
- 特にタマゴの供給量も市販用の需要減に伴い業務用へ潤沢に流れたことで、製菓製パンメーカーも好調となり、バターの消費も増加傾向である。

《国産脱脂粉乳》

- 各乳業メーカー在庫過多だが、メーカーによりバラつきがあり、特に在庫量の多いメーカーが価格改定後も物量を捌こうとしていることから、未だに価格が定まらないユーザーもある。

【家庭用】

- 市販用バターは前回報告同様、売場におけるバター欠品は完全に解消されており、供給は順調であると認識している。
- 安定供給を目的とした主要バター割当納品も22年1月終了以降、バター納品率は97%以上を維持しており、弊社売上高実績も堅調な動きを見せている。4月は価格改定

の影響により落ち込んだが、5月から巻き返し、4－5月累計で前年比111.5%と好調に推移している。

〔(※)「納品率」＝「小売店への納品数量」÷「小売店からの発注数量」〕

- 各主要メーカーの今後のバター在庫需要予測は、年度内（2024年3月末）までに欠品する・しないの回答は半々の状況。現時点における供給体制は概ね問題ないと判断している。天候不順などによる原乳不足や、コロナ収束による外食需要増など懸念事項もあり、引き続きバター動向には最大限留意しながら、需給調整の一翼を担うべく尽力していく。

一般社団法人全国スーパーマーケット協会

- 値上げの影響で単価が上昇するなか、買い上げ点数の減少幅は小さく、全体として好調な販売動向が続いている。背景として、人流の活発化による中食需要、また節約志向による内食需要共に堅調であることがあげられる。
- バターを含む日配乳製品の売上前年同月比は、22年10月から9か月連続で前年を超過している。直近、23年6月の実績は106.2%（既存店ベース）となり、全カテゴリーで最も高い伸び率の記録している。
- バター等の欠品は報告されていないが、業務用がなくなることによる市販用への影響が懸念されている。
- 発酵乳の買い上げ点数については、減少しているとの報告はない。牛乳については、価格面で安価な加工乳に流れてはいると思う。

一般社団法人全国消費者団体連合会

- バターをはじめ、牛乳、乳製品の供給は安定しており、現状で量的な不安は特に感じていない。しかし食料品や日用品の相次ぐ値上げと同様に、牛乳をはじめとする乳製品も全国的に値上がりしている現状で、購入したくても買い控えせざるを得ない消費者も多いと把握している。
- 牛乳が余っているのに、なぜ値上げするのかといった消費者からの声はある。
- 一方で、飼料価格の高騰や生乳の生産抑制等による酪農経営の悪化、それに伴う離農の現状については、消費者としても大変憂慮している。
- そのような状況の中、農林水産省による「畜産・酪農の適正な価格形成に向けた環境整備推進会議」が行われ、このたび中間とりまとめが公表された。生産コストを適正に価格へ反映するための仕組み作りや、小売価格の反映に対する消費者の理解醸成については、行政や流通・小売業界とも連携し、消費者に対して分かり易く丁寧な情報提供が必要なのは言うまでもない。
- しかし、こうした状況下で、この夏以降に予定されている乳製品のさらなる値上げに関しては、それがやむを得ない状況ではあっても、消費者が生活の維持のためにこれまで通りの消費行動ができなくなる場合があるのは仕方ないと思う。生産コストの見える化や価格上昇に対する消費者の理解の促進だけで、消費拡大につなげるのはむずかしい

状況であることを認識いただきながら、政府による様々な支援・対策を併用し、酪農政策の抜本的な転換と、消費者とのコミュニケーションを推進していくことが重要と思う。

協同組合全日本洋菓子工業会

- 会員数は、130 社程度。
- バターについて、当団体会員への直近の問診（約 20 社）では、8 社は「全く不足はない」、8 社は「今のところ確保できている」、残り 4 社が「不足している」との回答であった。「不足している」とするバターはいずれも国産バターであった。
- 仕入業者から「昨年並みの供給は可能」と伝えられている場合があるが、コロナの影響があった昨年より売上が急回復しつつある現在、今後のバター使用量の増加は必至である。
- 「今のところ確保できている」場合も、以前に供給不足の可能性があるとの話を聞き、かなり在庫を積み増ししていたところは、今はなんとかなっているが、今後の供給に対する不安は持っている。
- また、今後国産バターの入手が困難になる可能性があるため、価格は高くとも輸入バターへの切り替えを検討しているところもある。
- 事業者によって、バター需給の状況には格差があるが、現在既に不足を訴えている事業者が一定割合あることは事実であり、また、価格も 10～20%値上りしていることから、今後、年末の需要期に向け、価格も含めたバターの安定供給のため、輸入量の引上げなどのご検討をお願いしたい。

一般社団法人日本洋菓子協会連合会

- 当連合会の会員は、零細企業が中心。
- 業界としては、バターの確保に苦労しているとの認識であったが、本日、全体としては在庫が足りているとの報告を聞いて、どう判断していいかわからない。
- 業界では人手不足が課題となっており、年末～3月の最需要期に向けて、今から商品を作り溜める動きがある。
- 国内産バターを使いたい企業が主流だが、今後は輸入バターにシフトすることも考えていく必要がある。

全国菓子工業組合連合会

- 会員は全国で 8,000 社。
- 菓子業界では、人流の回復に伴い需要が回復してきているが、各種菓子原材料や電力光熱費の上昇が経営を圧迫しており、加えて鶏卵の供給不足に伴う高騰も加わって経営的には苦しい対応を迫られている。
- 乳製品の供給については、今のところ必要量が供給されているとみられるものの、昨年以上の供給は難しいとの説明を受けている例があり、価格の上昇もあって、今後の不

安要因となっている。一方で乳製品の生産調整のニュースに接することもあり、需要者として何が起きているのかと戸惑う場面がある。

- 今後は、国内旅行者やインバウンド客の回復もあって、菓子需要の回復が見込まれることからバターの供給余力が生産の制約要因になる可能性が高まっている。現段階では、中小企業としては比較的規模の大きい需要者が先を見越して手当てに走っており、それらには今のところ必要な供給が行われているように見受けられる。
- バターの全体の供給量が十分にあるという情報は伝えられているが、現実には末端事業者まで十分な量が行きわたらない場合、不安を感じた小規模需要者が在庫積み増しのため近隣の小売店在庫を買いまわる可能性があるため、そのような事態が生じないよう、十分な量の安定的供給を切にお願いしたい。今回は、供給の先行きに関する悲観的情報と、不安に基づく各段階での在庫の積み増しが原因となっている可能性もある。このような中にあるのは、政策的な供給余力の増大のアナウンスが不安解消につながると思われるので、先手を打った輸入量の拡大等の対策を期待する。
- 食料・農業・農村基本法の見直しにあたって、食料安全保障がキーワードとなり、持続可能な食料供給システムの構築が課題となっているが、菓子では国産バターの使用を製品の特色としているものも多く、輸入バターで代替できない需要も存在する。このため、まずは、国産バターの増産と持続的な安定供給をお願いしたい。また、国産バターの急な増産が難しいのであれば、輸入バターで代替可能な需要家には輸入バター使用に移行してもらいやすいよう、輸入バターの価格引き下げに効果を持つような弾力的な価格形成機能が必要ではないか。
- バターと脱脂粉乳との相対的な価格関係において、余っているものは安く、需要のあるものは高くといった弾力的な価格形成になってもよいのではないかと。

一般社団法人日本パン工業会

《バターについて》

- 国産品については、大手メーカーで使用するバラ（15 kg程度の塊）は現状では需給に過不足感はないが、ポンドバター（450gのもの）には不透明感があるとの声も耳にする。
- 8月から乳価が引き上げられるが、それが消費者の買い控え、バター用となればバラの供給量に問題はないと思うが、そうならない場合は危惧している。
- 価格については、輸入品が国産品を上回っている現状。価格面でメリットのある国産品を使いたい、前述のように供給にタイト感があり難しい。輸入枠を拡大し、量の確保をお願いしたい。

《脱脂粉乳について》

- 国産品については、特に不足感、過剰感を感じていない。価格は、円安の関係上、輸入品で割高感はある。引き続き安定した国産品の供給をお願いしたい。

(以上)